

## 歴史的・工学技術的意義

水深 300mまで潜航できる 3 人乗りの潜水艇「はくよう」は、第一次海洋開発ブームの 1971 年、日本海洋産業株式会社により川崎重工業株式会社で建造されました。

その後、ブームが去ると他の潜水艇はスクラップ処分される中、潜水艇「はくよう」だけが第二次海洋開発ブームの 2013 年まで、42 年間に渡り現役で運航され、8134 回の無事故潜航を記録しました。潜航水深が異なるので単純に比較できませんが、JAMSTEC の「しんかい 6500」の潜航回数は 2023 年 10 月 23 日現在の 34 年間で 1737 回でしたので、潜水艇「はくよう」の潜航回数の多さは際立っています。

潜水艇「はくよう」は 1980 年、日本海洋産業株式会社から新日本海事株式会社(深田サルベージ建設株式会社系列)に譲渡され、33 年間運航された後、新日本海事株式会社が深田サルベージ建設株式会社に吸収合併されたのにもとない 2013 年 6 月同社に譲渡され、同年 11 月鹿児島市に寄付され、鹿児島水族館の芝生広場にて展示されています。

潜水艇「はくよう」は、安全性が高く、運用性に優れ、故障が少ない名機であったため、十分な採算が確保でき、長年に渡り商業ベースで運航を続けることができたものと思われまます。

また潜水艇「はくよう」の運航技術は、今日の ROV(「はくよう 2000」、「はくよう 3000」、「はくよう」、「はくよう S3000」)に引き継がれ、JAMSTEC の潜水艇「しんかい 2000」の乗員訓練にも使用されました。

福島県相馬沖に海没した潜水艇支援調査船「へりおす」(総トン数 50t)を水深215m

の海底から引き揚げるなど、それまで大変に困難であった海没船舶や航空機の深海からの引き揚げ作業や海底ケーブル換装作業を潜水艇「はくよう」は一般化しました。海底火山や人工魚礁、海底生物、海底ケーブル・パイプラインなど調査や鋼材腐食経年変化解析のための海中実験等、深海での調査・実験の普及にも貢献しました。ROVとは異なり、研究者や技術者が乗艇して覗き窓から直接海中を観察することができ、その体験が研究の動機付けや斬新な発想に強い影響を与えました。8134回の潜航記録には、貴重な海洋データも蓄積されています。

また誰でも潜航できる例として、最高齢で70歳台半ばのご婦人から幼児までの幅広い方々を深海にご案内しました。